

せいしよの
ことば

オリーフ通信

新しい歌を主に向かって歌え。

詩編96編1節

神愛保育園

ご入園・ご進級おめでとうございます

桜の花が咲き始めました。この春、新しいお友だち11名を迎えて神愛保育園の新年度が始まります。4月は、新しい出会いの場です。寝返りもできない赤ちゃんから5歳児までの皆が、家族のように生活をいたします。進級した喜びや新しい大人との出会いを含めて、それぞれ新しい世界へ一歩、歩みだしました。

初めて集団生活に入る子どもたちは、大きな緊張と不安を抱えています。一日でも早く、一人一人にとって、気持ちよく安心してすごせて、心地よい居場所となるために、それぞれの子どもに合わせて、ゆったりとした生活がおくれるよう心に寄り添いながら職員一同努力していきます。

そして、まだまだ赤ちゃんと思っていた新たんぽぽ組や新もも組のお友だちも、周りの環境の変化を感じ取りながら、「自分が大きくなったのだ」という気持ちと期待をもっているようです。子どもたちにとって、大きくなるという事は大人たちが感じる以上にうれしいようです。新もも組の子どもたちに、「何組さんかな?」と尋ねると、「たん・・」と言いかけながら「もも組さん」とにこにこして話してくれる姿がありました。幼児クラスの子どもたちも、特に年長児にとっては、園で一番のお兄さんお姉さんです。保育の中で責任も与えられることもあれば、年中さんの憧れの存在でもあります。ちゅうりっぷ組にとっては、ひまわり組と一緒に遊ぶことが増える中で、乳児クラスとは違う新しい体験や興味の広がり、また言葉を通じた複雑なコミュニケーションの中で過ごすこととなります。子どもたちにとって、どのような大きな成長があるのか、今から本当に楽しみです。

さて、昨年4月に「子ども基本法」が制定され、その後「子どもまんなか社会」に向かつて様々な政策やビジョンが閣議決定されました。その中に、「すべてのこども 100 か月の育ちビジョン」というものがあります。子どもにとって、初めの100か月が生涯の幸せにつながっていくためにとても大切な時期だということが示されています。どんなに小さな赤ちゃんであってもその思いや願いが受け止められ、子どもが一人の人間としてその権利と主体が守られ、このことが社会全体で認識されることを一日でも早く実現できるようにというビジョンです。保育園もそれを実現するための一つの機関です。私たち職員も、保育を通して保護者の方々と一緒にさらに歩みを続けていきたいと思ひます。

そして、子どもたちたちや保護者の皆様にとって、保育園での生活が「居場所」となり「心のよりどころ」となれますよう努めたいと思ひています。神愛保育園の大切にしている「ともに育て育ちあう保育」、「地域に親しまれ信頼される保育園」、「保護者の方々にとっても居心地のよい保育園」をめざしていきたいと思ひます。

新年度も、どうぞよろしくお願ひいたします。

神愛保育園園長 鵜澤由記子

